芦屋市立美術博物館は、1991年に芦屋市制施行50周年記念事業として開館いたしました。美術部門と歴史部門を併せた複合施設として、芦屋ゆかりの作家の作品を中心に内外の名品をご覧いただけます。また、芦屋の自然や歴史を実際に目で確かめ体験する学習の場として、皆様に親しまれる身近な文化施設となることを目指しています。

イベント

ART MARKET あしやつくるば

春と秋、当館のお庭で手作りマーケットやワークショップのお店が集まります。“つくる”ことから生まれる喜びや発見を共有する2日間です。

アートスタディプログラム

まなびはくルーム

美術家や研究者、学芸員と一緒に、美術の面白さ、楽しさ、難しさなどを発見していく講座やワークショップなどを開催します。

※詳細は当館HPでご案内します。

「美術館ってどんな場所?
～教育普及現場からのお話～」
(2019年度開催)

小出楢重アトリエ

芦屋ゆかりの洋画家・小出楢重(1887-1931)のアトリエを復元し、愛用の画材やモチーフなどの遺品、資料を展示しています。美術博物館開館中は無料でご覧いただけます。

喫茶

Café de Repos カフェ・ド・ルポ

美術博物館の前庭に隣接する喫茶店。特別展に合わせ期間限定のデザートメニューもご用意しております。10:00～17:00まで。

文化ゾーン連携講座

芦屋市内の各館の学芸員が、それぞれの専門分野から、「芦屋」に関する内容を中心に紹介する講座を開催します。

※詳細は当館HPでご案内します。

〒659-0052 兵庫県芦屋市伊勢町12-25
TEL：0797-38-5432　FAX：0797-38-5434
ashiya-museum.jp

Ashiya City Museum of Art & History

2023.4 ―― 2024.3

芦屋市立美術博物館
Exhibitions Schedule

ご利用案内

開館時間 ｜ 10:00～17:00(入館は16:30まで)
休　館　日 ｜ 月曜日(祝日の場合は開館、翌平日休館)
年末年始、展示替え期間中

観覧料

一般 300(240)円 / 大高生 200(160)円 / 小中学生 無料

展覧会によって料金が異なる場合があります

※(　)内は20名以上の団体料金です。
※高齢者(65歳以上)および身体障がい者手帳・精神障がい者保健福祉手帳・療育手帳をお持ちのかたとその介護のかたは各当日料金の半額になります。
※ご来館の際は、当館HPをご覧ください。

駐車場使用料(20台)

30分100円(8:00ー20:00) / 60分100円(20:00ー8:00)

※当館利用者は1時間無料

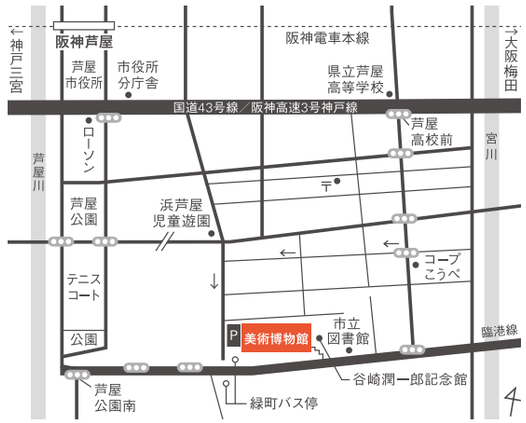
施設使用料

区 分	10:00ー12:00	13:00ー16:30	10:00ー16:30
講義室	2,850 円	4,370 円	7,230 円
体験学習室	4,170 円	6,820 円	11,000 円

交通のご案内

- 徒歩 ➡ 阪神芦屋駅から南東へ約15分
- 阪急バス ➡ 「新浜町」または「芦屋市総合公園前」行き乗車(31、32、35、36、131系統)、「緑町(美術博物館前)」停留所下車、徒歩2分

バス乗り場 ➡ 阪神芦屋駅から：南側2番のりば
JR芦屋駅から：北側5番のりば、阪急芦屋川駅から：南側5番のりば



4月15日㊏ → 7月2日㊐
芦屋の美術、もうひとつの起点 ― 伊藤継郎

伊藤継郎《二人の司教》1968年
油彩、布 当館蔵

洋画家・伊藤継郎（1907-1994）は、1928年より芦屋に住み、日々の生活や旅先で心惹かれたモチーフを、独自の技法で愛情豊かに描きました。1941年新制作協会に入会。温厚な人柄が慕われ、芦屋のアトリエには画家仲間や文化人が集い、絵画教室も開かれます。1948年には芦屋市美術協会の創立に参加し、芦屋の美術の発展に貢献しました。
本展では、約60点の伊藤作品とあわせ、伊藤が交流した多彩な画家たちの作品を展観します。唯一無二な伊藤絵画の内実に迫り、伊藤の画業の再検証を試みます。

7月22日㊏ → 10月9日㊊㊗
最後の浮世絵師　月岡芳年（仮）

月岡芳年《風俗三十二相 遊歩がしたさう
明治年間妻君之風俗》1888年 錦絵 個人蔵

江戸の新橋で生まれた月岡芳年（1839-1892）は、12歳のときに歌川国芳（1797-1861）に学び、15歳で画壇デビューしました。22歳頃から本格的に浮世絵師として活動をはじめ、54歳で没するまでに数多くの作品を世に出しました。
本展では、妖怪などの怪奇をテーマとした《新形三十六怪撰》や、芳年の代表作である《月百姿》などを数多く展示し、芳年のたくましい絵心で描かれた魅力あふれる作品の数々を紹介します。

10月28日㊏ → 2024年2月4日㊐
art resonance vol.01
時代の解凍

山田正亮《Still Life no.51》1952年 油彩、布 当館蔵

関西を拠点に国内外で活躍する、藤本由紀夫、髙橋耕平、野原万里絵、黒田大スケの4名の作家が、当館コレクションから山崎つる子、津高和一、山田正亮、田中敦子や彫刻家の作品に注目し、様々な方法で作品を読み解いていきます。彼らが導き出していく仮説や論考は、作品の新たな解釈や意義、これまで見えていなかった作品の表情や作家像を現してくれると考えます。
本展は、現代に生きる作家が当館コレクションを新たな視点で調査・研究し、その研究成果として展覧会＝「思考を深める場」を立ち上げる、新たな試みです。

2024年2月10日㊏ → 2月18日㊐
第41回 芦屋市造形教育展

第39回 芦屋市造形教育展の様子（2021年度）

芦屋市内の就学前施設、小学校、中学校の子どもたちの作品を全館（歴史資料展示室を除く）にわたり展示します。
主催:芦屋市教育委員会、芦屋市造形教育研究会

2024年3月5日㊋ → 3月24日㊐
第67回 芦屋市展

第66回 芦屋市展講評会の様子（2021年度）

「何人も随意に応募することが出来ます」という自由さが特色の公募展として1948年に第1回展が開催されて以来、本展は今年67回目となります。
本年も多くの方々に親しみをもっていただける公募展をめざします。部門には平面（油彩画、水彩画、日本画、版画などを含む）部門と写真部門があり、芦屋市長賞、芦屋市議会議長賞、芦屋市立美術博物館奨励賞、審査員特別賞、寄託賞などが選ばれます。また前回に引き続き、会期中に来場者の投票で選ぶ賞も実施されます。
主催:芦屋市、芦屋市教育委員会、芦屋市立美術博物館

歴史資料展示室　常設展

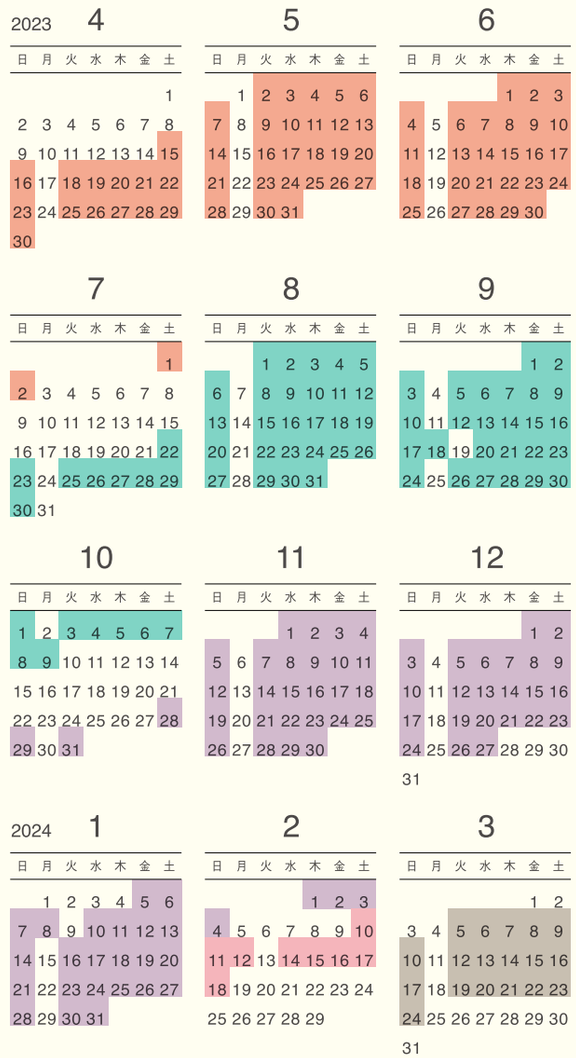
2023年度より歴史資料展示室を常設展示室としてリニューアルします。芦屋市のプロフィール、地理的特徴、現在の住宅都市となった背景、古代の芦屋について数多くの資料を通して紹介します。
進化した歴史資料展示室をご堪能ください。

各展覧会のスケジュールやイベントについては
当館ホームページ、Twitterなどをご覧ください。

HP　　Twitter

Exhibitions Calendar 2023-2024

- 芦屋の美術、もうひとつの起点 ― 伊藤継郎
- 最後の浮世絵師　月岡芳年
- art resonance vol.01 時代の解凍
- 第41回 芦屋市造形教育展
- 第67回 芦屋市展



※その他の期間は休館日となります。
※イベント及び展示の内容等は都合により変更になる場合があります。あらかじめご了承ください。